

経営比較・交流会に24名が参加

広島県生協連では、2015年度から福祉・介護委員会を構成する広島医療生協、広島中央保健生協、福山医療生協、生協ひろしまの4つの生協の介護事業所別の経営情報を同じ基準で集約し比較、分析できる数表を作成して4生協に提供しています（現在、12事業種類58事業所分を集約）。

その中から、毎年事業種類を選定した「経営比較・交流会」を開催しています。

今年度は居宅介護支援事業所の経営状況の実態調査を行い、その分析内容の共有化と事業所の実践交流の会を9月12日(水)に開催しました。4生協の10事業所からケアマネジャー15名、法人の職責者7名他の24名が参加しました。



高田専務の挨拶で開会（上）



実践報告をする岡田さん(左)と志々目さん(右)



グループ討議の様子

県生協連高田専務の挨拶で開会し、居宅介護支援事業所の経営の解説と実態調査報告、2つの事業所からの実践報告を行いました。

1. 「医療との連携加算取得の取り組み」〔広島中央保健生協 居宅支援事業所管理者 志々目さん〕

2. 「ケアマネジャーと組合員の連携」〔広島医療生協 居宅支援事業所管理者 岡田さん〕

後半は4つのグループで1時間のグループ討議と発表を行い、広島医療生協の斉藤専務が“医療との連携、組合員との連携という生協の強みを生かそう”との挨拶で締め括り、閉会しました。



閉会挨拶をする斉藤専務

今回は、4生協の全ケアマネ事業所の2月から6月までの月別に、収入、事業経費、経常剰余等の額と収入対比、ケアマネ1人平均の持ち件数・収入額・人件費や、特定事業所加算、個別加算（退院・退所連携、入院時情報連携、ターミナル）の件数・単位数等のデータも配付してグループ討議を行いました。

【参加者アンケートより】

- * 経営について考えることがなかったが、事業所の存続がなければケアマネの仕事もないので、しっかり考えないといけないと感じた。
- * 経営状況がわかった。他と比べることができて自分の今の状況がわかる。
- * 医療と介護の連携の取り組みが進んでいる報告をきいて、法人全体の経営のためにもどのように連携をすすめていくか考えていかないといけないと思いました。
- * 組合員さんとの連携（班会）などに積極的に参加することが必要であることがわかりました。
- * 論議が活発に行われ大変勉強になりました。また4生協で交流する機会を継続したいです。